

クラスだより

6年生

“一瞬の今を、千秒にも生きる” —鉱物学とカヌーツアーの研修旅行

この夏6年生は、和歌山県の古座川へ3拍4日の研修旅行に行きました。

鉱物学や地理のエポックに関連づけて現地の岩々の様子、地形、養蜂等様々に学び、「実際行ったらどんなやろう…？」とイメージを膨らませ、研修旅行準備のための登校日に来て下さったカヌーの上田さんやスタッフの四至本さんを、はにかみながらも質問攻めにした子どもたち。数日後には大きなカバンに寝袋を抱え、満員電車を乗り換え、特急で向かいました。

「すごい…！」橋杭岩や一枚岩を目の前に、感嘆の声を上げ見入って、昼食。

「いよいよだ…」と緊張が高まります。そう、初日には、上流の滝の拝での“飛び込み”が予定されていたのです。自分の胸を叩き、「行ける」と感じたらOKサインを出す—上田さんに教わった「自分との対話」を真剣な顔でして、一人、また一人—ついには全員が、飛び込んでいきました。

「特別な瞬間だった」—勇気を持ってカヌーで急流に挑んだ瞬間。川の上でカヌーを止め、せせらぎと森の音にじっと耳を傾けた時間。カヌーを下りて皆で向こう岸を目指し、最後の一人が泳ぎ着いた瞬間。「みんながみんな、みんなのために手伝った。」—カヌー練習の合間に洗濯し、食事を作り、テントを張り—それぞれが個として精一杯の体験を重ねながら、全体として大きな呼吸をしている様な時間が流れていきました。そして迎えたカヌーツアーでは、風を受け波を受けどんどん重くなるパドルに負けず、「河口まで、行く。」と全員で決意し、7km+αのツアーを成し遂げたのでした。

「ついさっきまでいたのに、なつかしい…。」（帰りの特急からしみじみ古座川を見て）「海が、来たときよりも、大きく見える…。」

駅に向かうマイクロバスで、お世話になった上田さんに心を込めて、合唱『一瞬の「いま」を』（の“特製古座川バージョン”）を歌い贈った子どもたち。この度のこの旅が、彼らの顔つきをまた一つ、大人にしていきました。

“一瞬の今を 千秒にも生きて このうれしさを 胸に刻もう”